

## 遊びの環境づくり



子どもたちが、園庭の渡り廊下で転がり遊びをしています。先生は、場所や動きの安全を確認し、夢中で遊ぶ子どもたちをずっと見守っています。一人の発想で始まった遊びが、多くの子どもに伝わり、隣の芝の斜面にまで広がっていきました。(インスタをご覧ください。)

乳幼児期の子どもは、今伸びようとする力を遊びの中で繰り返し練習し、確実にその能力を獲得します。では、この転がり遊びに夢中になっている子どもたちは、何をしようとしているのでしょうか？

「体育遊び」の中で経験した横回転が楽しかったことから、体を回す力を自分のものにしてしようとしているのでは…。「下り坂では、簡単に回れること」「体を伸ばすとよく回ること」「板の上より芝の方が痛くないこと」「広い所では、友達と並んで回れること」など多くの学びもあるようです。また、この遊びを思いついた子どもは、「友達が自分の動きを真似てくれるうれしさ」や「自分が友達に役立っている喜び」を感じているでしょう。子どもは気付いてはいませんが、腹筋や背筋など体幹の強化にもつながります。

「そんな所で転がったら、けがをするからやめなさい!」「服が汚れるから、転がらないでこうやって渡る遊びをしてごらん。」など、

→ つい、我々大人は、けがを心配するあまり規制したり、教え過ぎたりしがちです。



前述のように、子どもが夢中になる遊びは、多くの学びのほか、身体機能を高め、興味・関心を広げ、好奇心を育みます。

園では、一人一人の子どもの行動を見て、その子が今何を獲得しようとしているのかを捉え、そのために必要な環境を整えていきたいと考えています。

## 自然との関わり

子どもたちは、生き物探しや花摘み、草花の観察など身近な自然との触れ合いが大好きです。その様子は、日々コドモンでお知らせしているとおりです。

現在、これらの遊びに加え、柿もぎや栗拾い、芋掘りを行っています。お子さんが持ち帰った柿や芋をご家族で食べられたところもあるのでは…。【裏に続きます】





園では、子どもに「園内外の身近な自然の美しさや不思議さ、豊かさに触れて感動する体験を通して、自然の変化を感じ取り、関心をもつようになってほしい」と願っています。

子どもの出会う自然には、雨や風などの自然現象、虫や草などの自然物、山や川な

どの地形、月や太陽などの天体等があります。

そこで、お子様の好奇心を引き出すために、保護者の皆さんもお子様と一緒に自然物で遊び、発見と感動を伝えてみてください。「これ、何だろう?」「不思議だね!」「わあ、きれい!」など…。さあ、挑戦!

## 10月の活動の中から



自分でとった柿は、おいしいね!



イググリは、優しく持つととげが刺さらないよ!



どんなお芋があるかなあ?



うんとこしょ、どっこいしょ!



「英語で遊ぼう」  
みんなでハッピーハロウィン

